

## 元号「令和」揮毫の 茂住さん栄で書展

「力強さ感じて」

元号「令和」を政府が発表した際の書を揮毫した書家、茂住善邨さん（六六）＝川崎市多摩区＝の書展「言霊の響」が二日、栄の名古屋三越栄店美術画廊で始まった。八日まで。

茂住さんは岐阜県古川町（現飛騨市）出身。大東文化大時代、文化勲章受章者



「作品から生き物のような力強さを感じてもらえたら」と語る茂住さん＝栄の名古屋三越栄店美術画廊で

の故青山杉雨さんに師事した。総理府（現内閣府）に入り、辞令専門官を長年務め、国民栄誉賞の賞状や総理大臣表彰、国務大臣の辞令の揮毫を担当。昨年、内閣府を退職し、書家としての活動を本格化した。

出展は、扇面や陶皿に揮毫した作品なども含め六十二点。龍や虎などを強靱な甲骨文字で書いた「四神」や、きっちりとした楷書体で記した「令和」などの作品が並ぶ。同県高山市の紙絵馬に着想を得た「馬頭絵馬」や、一九六四年のピンテーシワインの灘で書いた「久遠」など、遊び心にあふれ、見て楽しめる書も多い。

茂住さんは「書は、なかなか読めない作品が多いというイメージを払拭すべく創作している。作品から、生き物のような力強さを感じてもらえたら」と話した。三、五、六日の各午後一時半から、茂住さんによるギャラリートークがある。